



日経フォーラム「グローバル GX・金融会議札幌 2025」に参加しました

2025 年 11 月 25 日(火)に、札幌市で開催された日経フォーラム「グローバル GX・金融会議札幌 2025」に重竹 COO と高田理事が参加しました。

1. 日経フォーラム「グローバル GX・金融会議札幌」の概要

〔日付〕 2025 年 11 月 25 日(火)

〔主催〕 札幌市、日本経済新聞社、テレビ北海道

本フォーラムでは、「GX2040 ビジョン」の策定、GX 戦略地域の創設、排出量取引制度の導入等の最近の GX に関する政策展開や、世界的な脱炭素と産業競争力強化の両立の動向を踏まえた、国内外の専門家による議論が行われました。

GX は日本企業にとって喫緊の課題であると同時に、新たな競争力獲得の好機であるとの認識の下、再生可能エネルギーや GX・金融に関する動向・課題・今後の展望、海外連携のあり方等について多角的な意見交換が行われ、有意義な対話・発信の場となりました。

2. 各登壇の概要

(1) 重竹 COO による講演の概要

重竹 COO は、国際的にエネルギー政策の見直しや一時的な後退が見られる中でも、日本の GX については、現下の状況における課題を戦略的に見極め、着実に進めることが重要であると強調しました。欧米の脱炭素化の推進がより現実的なトランジションへ軸足を移す中、日本にとってはむしろ競争優位を構築する好機であると指摘しました。

また、GX2040 ビジョンを踏まえ、クリーンエネルギーインフラへの投資と、環境価値が認められる市場の創造の重要性を強調しました。これと同時に、金融機関による戦略的な移行計画の策定・実行を促すエンゲージメント活動の強化にも期待を示しました。

さらに、ディープテックスタートアップ支援、ブレンデッドファイナンス、GX 戦略地域の活用等を通じ、国内外の産業クラスター形成とスケールアップを加速させる必要性を指摘しました。

加えて、北海道の高い再生可能エネルギーのポテンシャルに言及し、本イベントに参加したデモンマークの事例を引き合いに出しつつ、GX と DX を組み合わせた北海道の発展への期待を示しました。

結びとして、GX は官民およびサプライチェーン全体が横断的に取り組むべきテーマであり、GX 推進機構は金融支援と GX-Hub 機能を通じて、挑戦する企業を力強く後押ししていく決意を述べました。



(2) パネル討論:「GX を進めるサステナブルファイナンスの国際連携」の概要

[登壇者]

パネリスト: 金融庁総合政策局デPUTY・チーフ・サステナブルファイナンス・オフィサー

矢野 智史氏

クライメートボンド・イニシアチブ CEO ショーン・キドニー氏

ソシエテ・ジェネラル銀行 日本における代表者兼東京支店長

ブルーノ・ゴソーグ氏

モデレータ: GX 推進機構 理事 高田 英樹

本パネルディスカッションではまず、直近の国際的な動向や COP30 を踏まえ、脱炭素化やサステナブルファイナンスに関する今後の国際的なトレンドについて議論されました。

各パネリストは、世界全体、特に欧州、アジア、そして日本において、脱炭素化やサステナビリティの必要性は不変であり、取組みが着実に進展していくという認識を共有しました。さらに、その国際的な潮流における日本の GX の重要性、とりわけ北海道における GX の投資機会、そして GX 国際金融センター化を目指す札幌の取組みの進展について、具体的な事例を交えて議論を深めました。

モデレータを務めた高田理事は、脱炭素化やサステナビリティを巡る様々な課題が存在するにも関わらず、その流れは減速していない点を強調しました。また、日本および北海道・札幌の GX に対する期待の高さが、この国際的なパネルを通じて改めて明確に示されたことの意義を締めくくりとして強調しました。



(本発表資料のお問合せ先)

脱炭素成長型経済構造移行推進機構

担当者:財務・サステナビリティ推進部

海部、天達、清水、會田

メール:gx_acceleration_agency★gxa.go.jp

※[★]を[@]に置き換えてください。